

政府基地政策の命運決めるはずの名護市長選 仲井眞知事、年内埋め立て承認可否判断へ

名護市長選が一月後に迫った。14年1月19日の投票日へ向け、名護市では「海にも陸にも基地をつくらせない」と明言している稲嶺進現職、普天間代替施設条件付き容認、自民党沖縄県連公認の末松文信県議（元副市長）、「辺野古移設なくして北部振興なし」と誘致派の島袋吉和前市長がそれぞれ出馬表明して、「保守派（容認派）の分裂」「三つ巴戦」などといわれている。

安倍晋三内閣と自民党は、市長選前に仲井眞知事に承認させるべく、「環境づくり」と称するなりふりかまわぬ圧力と、時代錯誤なアメーサまざまな「特別措置」一の乱発で攻勢をかけてきた。1998年、橋本龍太郎内閣の大田昌秀知事追い落とし以来の、いやそれ以上の露骨な手口に県民もあきれられるばかり。

石破茂自民党幹事長の、自民沖縄選出国會議員5人中、「県外移設」を堅持してきた3人と沖縄県連への「公約破り」強要は、まさに琉球処分官・松田道之の行動そのもの。武力こそ使わないが、21世紀に白日の下で繰り広げられた「首里城明け渡し」（1879年）の再現だった。これが、特定秘密保護法制定の強行採決と同時進行で行われた。辺野古問題も「年はまたがない」と強行突破した秘密保護法採決と同じやり口だ。年内に知事の承認を取り付け、名護市長選で稲嶺進市長が再

選されても、民意は承認として辺野古を強行できる。警察力を使ってもという強硬論さえあると伝わってきた。

他方やはり同時進行で、稲嶺名護市長は、県から求められていた埋め立て申請に関する市長意見を、寄せられた市民・専門家の意見1500余も取り入れながら「断固反対」とまとめ、市議会の承認決議を経て、知事が申請を不承認とするよう要求した。市民団体の激励集会を受けて、意見書を提出した11月27日は、自民県連が中央に屈服、オスプレイ配備撤回、普天間の県外・国外移設を求めた「オール沖縄」の枠組みが崩壊した日である。

さらに同時進行で、文科省が八重山・竹富町教委が石垣市、与那国町と別の教科書を選定・使用していることに対し、県教委が是正指導するよう政務官を派遣して、恫喝した。

自民県連の辺野古容認によって、沖縄は分断された。毎日のように41市町村全首長・前議会議員、1人（末松氏）を除く全県議による「県外」が揺らぎ始めた。「普天間の固定化」を避けるため「あらゆる選択肢を」という巧妙なレトリックで、辺野古容認を打ち出す首長が現れ出した。昨日は宜野湾市長、今日は浦添市長と日替わりの公約破り。

仲井眞知事は、外堀を埋められ、内堀を埋められ、絶体絶命の状況だ。県議会で知事選での公約「県外」堅持（10月）、埋め立て申請への結論は「年末以降」（11月上旬）と答えていたのを12月13日、与党・公明党県本部の埋め立て不承認提言に対し、「年内に判断できれば」と答えた。御用納めの27日ではと観測されている。

その間、辺野古の自然・生活の安全が守られないとして国のアセスメント是正に対する質問を4度にわたって行い、新任のケネディー大使と会談、高良倉吉副知事主導で、日米の有識者によりつくられた「沖縄クエスチョン日米行動委員会」の「辺野古見直し」報告をまとめさせたり、多岐にわたる模索を続けてきた。知事の埋め立て承認は、辺野古新基地建設容認を意味する。そして、知事選での公約「普天間は県外へ」を破棄することになる。自民国会議員や自民県連の方向転換は県民の激しい怒りを買っている。「オール沖縄」を保守の側から主導してきた翁長雄志那覇市長をはじめ、歴代の自民県連会長が厳しく批判、自民那覇市議団14人は衆院沖縄1区役員を辞任、那覇市議会は政府に抗議し、普天間の県内移設断念を求める意見書を全会一致で可決。県庁前広場では連日知事の承認を求める集会・デモが続いている。息詰まるような日々が続く。（由井晶子／ジャーナリスト）

1次▶もくじ▶contents▶目次▶もくじ▶contents▶目次▶も

- 1 面 政府基地政策の命運決めるはずの名護市長選 仲井眞知事、年内埋め立て承認可否判断へ◆由井晶子
- 2 面 わだつみ会「不戦の集い」集会報告◆高橋武智
秘密保護法強行成立糾弾！ 安倍政権の「改憲」攻勢に民衆の反撃が始まった◆国富建治
- 3 面 《状況批評》「戦争」を知っていても理解できない人たちの心に響くように◆野添憲治
- 4 面 「NO NUKES えひめ」に全国から参集、再稼働阻止の決意を新たに◆木村雅英
憲法を読む『満心愛の人 益富鷺子と古謝トヨ子』（大橋由香子著、インパクト出版会）
- 5 面 反改憲ニュースクリップ
- 6 面 私も一言（186）不倫と憲法◆内田真人
集会・行動情報（12/21～1/25）

わだつみ会「不戦の集い」集会報告

今年のわだつみ会「不戦の集い」は、恒例どおり、出陣学徒が陸軍に入営した12月1日、学徒出陣70周年に明け暮れた一年間のしめくくりとして、1944年に入隊した色川大吉さんを講師に迎えた。狭い意味での「出陣」だけでなく、子供時代から敗戦までの見聞・感想をまとめて語るという意味で、「自分史」を展開してくださった。その体験の反省から、民衆がしたたかな抵抗者であることを認識して、戦後「運動史」を専攻したという。平和憲法を踏みこじった安倍の排外主義への路線は、沖縄に最もよく象徴される民衆の闘いにより長期的には破産するだろうという見通しは、むしろ楽観的な調子だった。

会場の白井厚さんからあった、「戦争中、人々は天皇を神と信じていたのでしょうか」という質問には、本音と建前の区別はあったとしても、そんなことはありえないと即答。現在の皇室は、裕仁がすべきでありながら、しなかった戦争責任の謝罪をつづけているとする反面、国民がもちづけている幻想的な天皇制観に支えられてもいる、と興味深い指摘がつ

づいた。

もう一人の講師、根津公子さんは、公立中学の家庭科教師として、終始「日の丸・君が代」を拒否し、減給・転職の処分を受けること10回におよんだ経過を、豊かな資料を示しながら淡々と語ってくださった。それにもかかわらず、定年退職を迎えられたのは、彼女の行動に共感し、ともに闘ってくれた生徒たちの存在が大きかったことを力説した。色川さんが例にあげた沖縄民衆の闘いの見本的充実例として、一人の教師・一人の市民が闘いつづけるには、どんな粘り強い信念と力が必要かを、身にしみて感じさせられた講演だった。

つづいて、「特定秘密法案阻止のための特別アピール」を参加者一同の拍手で採択、さらに学徒出陣関係の映像二本を鑑賞して散会した。

場所は江戸東京博物館の会議室、出席者は約70名だった。

(高橋武智／わだつみ会)

秘密保護法強行成立糾弾！ 安倍政権の「改憲」攻勢に民衆の反撃が始まった

10月15日に召集された第185臨時国会では、安倍首相自ら「国家安全保障会議」（日本版NSC）設置法案とセットであると打ち出した「特定秘密保護法案」をめぐる攻防が最大の焦点となった。「国家安全保障にかんする特別委員会」を設置して、連日の審議を可能とし、何がなんでもこの両法案を会期内に成立させることを至上命題としたことに、安倍首相のなみなみならぬ決意をうかがうことができる。安倍首相は自らの政治信条である憲法改悪をなしとげるために、まず立法改憲を通じた憲法破壊（壊憲）に着手した。それは「中国への対処」を最重点にしたアメリカの軍事戦略に日本を実戦的に組み入れることを直接の目的としているが、それだけではない。安倍は「米国の要請」を口実に、戦後日本の国家システムを根本から作り替え、「戦争する国家」の治安弾圧体制を確立する道に踏み込み、「明文改憲」秩序を先行的に築こうとしたのだ。

しかし「特定秘密保護法案」の上程は、おそらく安倍政権の想定を上回るかたちで広範な人びとの反対を引き起こした。「秘密」の内容が「秘密」のままに官僚によって一方的に指定され、公務員のみならずメディア関係者、一般の人びとにまで罪に問われ、さらに最長で10年の重刑が課される。権力にとって都合の悪い情報はほぼ無期限に隠ぺいされる。

基本的人権である「知る権利」が罰則を持って制限される。そして公安警察や自衛隊の「情報保全隊」などの労働組合や市民団体への監視・弾圧が横行する、「特定秘密」を取り扱った者への「適性評価」実施による人権侵害が行われる、などの

問題点が明らかになるに及んで、反対の声はマスメディア、映画・音楽界、学者・文化人などかつてないほどの広がりを見せた。「現代版治安維持法」との批判が切迫感を持って広がった。

11月21日の1万人集会ではすみがついた運動は、11月26日の参院強行採決を契機に、昼夜を問わない連日の国会、官邸前抗議のうねりになった。反原発運動などに参加してきた若者たちの参加も目立った。石破自民党幹事長が国会周辺での反対デモへの憎悪をむき出しにしてブログで書いた「単なる絶叫戦術はテロ行為とその本質においてあまり変わらない」という言明は、同法案の本質をえぐり出すものになった。なぜなら同法には「テロリズム」の定義に関して「政治上その他の主義主張に基づき、国家若しくは他人にこれを強要」する行為、すなわちデモそのもののまでふくむように読み取れる文面があるからである。

12月6日、日比谷公園では1万5千人を結集した大集会とデモが行われた。そして当日深夜について「秘密保護法案」は参院本会議で成立した。しかしこの強行劇で安倍政権の危険極まる本質がいっそう明らかになった。「みんなの党」はこの法案を直接の契機にして分裂した。自民補完勢力にひび割れが始まったことは、安倍政権そのものの支持率の低下、改憲・戦争国家に反対する新しい民衆的運動の可能性を示している。

(国富建治／事務局)

事務局から～

●次号(15&16号)は1月22日発送予定です。●事務局にはスタッフが常駐していません。ご連絡の際にはファクシミリ、お葉書が確実です。特に転居の際にはご連絡ください。

状況批評

「戦争」を知っていても 理解できない人たちの心に響くように

野添憲治（ノンフィクション作家）

反改憲運動と平和教育は深くつながっている。日本の平和教育はアジア・太平洋戦争を主なテーマに進めてきている。しかし、現在戦後生まれが85%の時代になり、残りの15%の戦争体験者の中で反改憲の運動に取り組んでいる方や、反核や軍縮を目差す考えを持って行動している方はどれくらいいるだろうか。昨年の衆議院選での自民党の圧勝や、参議院選挙の結果を見ているとそれほど多くはないようにも考えられる。だが、わたしの周辺には頑張っている方が沢山おられる。しかし、敗戦から68年になった今、敗戦後生まれの85%の人たちにとってはアジア・太平洋戦争は遠い過去の出来事のように思えるのではないだろうか。それを平和教育のテーマにするのは間違いではないが、85%の人たちにうまく伝わっているだろうかと思えてならない。

わたし事で恐縮だが、戦時中の日本へ強制連行された約4万人の中国人は、北は北海道から南は九州までの135事業場で強制労働をさせられた。2001年から9年間かけてその現場を全部歩いたが、慰霊碑などが建っている所は少なかった。しかもその場所を地元の人に聞いたり、案内をして貰ったりして行くことができた所もあった。案内してくれた人たちも高齢で、この人たちがいなくなると中国人が重労働をした現場も忘れられるだろうと思いながら歩いた。

また、立派な碑は建っているものの、その碑を建てた時の中国人犠牲者に対するお詫びや反戦の行動をその後も続けている所は少ない。民主団体や行政が細々と続けている所もあるが、関係者が集まるだけで地元の人たちに運動の意味を働きかけたり、また学校教育の中で取り組んでいる所は見られなかった。社会教育でも趣味の会とかランドゴルフなどには力を入れているが、碑を柱にした中国人強制連行の学習に取り組んでいる所は残念だが見られなかった。

ただ、全部がそうだということではない。岩手県教職員組合岩手支部のように、県内の小・中学校から希望する生徒や教師をつのり、バスに乗って秋田県北の旧花岡鉱山へ花岡事件の現場で学ばせを13年間も続けてピースバスを走らせている所もある。1年生の時から参加して5年生になる生徒に、ことしの秋に来た時に1カ所で説明して貰ったが、案内係のわたしよりも上手に、心のこもった説明をするのを見て、驚くというより嬉しかった。年に一回だが、5年も続けて通った成果がちゃんと見えたからだ。地味だが時間をかけてゆっくりと体験を伝えることの大切さを知らせてくれた。戦争を体験した人たちの多くは、何らかの形で平和運動や平和教育に関係し、反戦・反核・軍縮を語り、訴えて来た。だが、次の世代に伝える運動が十分ではなかったために、敗戦後生まれの85%の人たちとの間に断層ができていたことも確かだ。

わたしは地元で戦争遺跡を発掘してそれを地域の新聞などに書き、またバスに乗って遺跡を見て歩くことを長年やってきた。こうした作業は他県でもやっており、県内の戦争遺跡を小冊子にまとめて発行し、副読本にして配っている県もある。だが、わたしの場合は小・中校の現場の教師がこれまで一人も参加していない。教務などで忙しいのだろうが、わたしにはとても気になるのだ。大学で日本史や世界史などは十分に学んできた

は思うが、自分が生活したり、また教えている学校の地域のことをどれだけ広く、深く知っているのだろうかということになると疑問は残る。地域史に興味を持って調べている教師以外は、そんなに知らないのではないだろうか。自分でも知らないから、子どもたちにも教えることができない。

だが、平和教育で「広島」には多くの教師たちが行っている。原爆教育は深い蓄積がなされているので、多くのことを学べる大切な場であり、一人でも多くの人が行ってほしいと思っている。しかし、学んできたことを教師がリアリティを持って子どもたちに教えることは至難なことだ。伝えていく一つの方法は、子どもたちが生活している現場にある素材に関係づけて教えることだろう。テーマが身近になることによって、子どもたちに遠い過去にあった原爆を理解させることができるだろう。だが、そのためには地域のことを、教師自身がよく知っていなければいけない。

ことしの10月下旬、長野県阿智村にこの4月に開館した日本国内で唯一の満蒙開拓を記念した施設である満蒙開拓平和記念館を見に行った。わたし自身も満蒙開拓や国内の開拓を長年にわたって調べてきたし、旧満州（現中国東北部）に日本人が入植した開拓地にも数回調査に行っているの、日本で最も多くの満蒙開拓者を送り出した長野県内の当時の状況もよく判っている。ソ連の参戦、日本の敗戦などで入植した開拓地からの悲惨な逃避行の中で飢えや寒さに苦しみ、前途に絶望して集団自決をした事実を系列的に展示しているので、満蒙開拓団のことはよく理解することができた。見学者は当初予定した年間5千人を超えて開館半年で2万人を越えたというが、見学者は満蒙開拓者自身かその関係者が多く、敗戦後生まれの世代は少ないという。

記念館では展示の他に、元開拓者が体験を語るコーナーもあるので、未経験者も理解できるように配慮されている。だが、食べ物がないという飢餓の話をして、生まれた時から食料が豊富で、飢えの苦しみを体験したことのない人たちにこの事実を教えても、「大変だったのですね」という感想は言うものの、母がわが子の首を絞めて殺したり、子どもを抱いて川に身を投げる行為を理解できるほど心に響くだろうかという疑問に聞くと、どこまで感じているかはわからないと言っていた。しかし、飢えるという苦しみを理解できないと、満蒙開拓者の苦闘はわからないだろう。

このように体験していない人に、戦争を教えること、伝えることは難しい。難しいが伝えなければ、85%の人たちは「戦争」は知っても、「理解」できずに成長していく。そして戦争を克服するための反改憲や反核、軍縮を目差す運動が根づき、育ってはいかない。

ではどういう取り組みがあるかといえば、具体的に答える方策は見つからない。ただ一つ言えることは、広島や満蒙開拓平和記念館で学んだことを自分が暮らしている所に持ち帰り、その周囲に埋もれている戦争遺跡を掘り起こした事実と関連づけて知らせることだろうとわたしは考え、実行している。知らせる側で戦争を具体化させなければ、85%の人たちの心に響くように伝えることは難しい。

「NO NUKES えひめ」に全国から参集、再稼働阻止の決意を新たに

11月30日、飛行機から緑豊かな美しい山国・島国日本を満喫、これらを放射能まみれにするなんて本当に馬鹿げている、そんなことを胸に抱いて松山空港着。すぐにバスに乗って伊方に向かう。「原発の来た町 原発はこうして建てられた 伊方原発の30年」(斉間満著、南海日日新聞社)を機内で読み伊方での厳しい闘いの歴史を学んだばかりのところ、06年没の著者のお連れ合い斉間淳子さんがバスに乗り込んで案内してくださる。四電の口車に乗って夫の意向に反して印を押したために自殺することになった方、土地を売らずに93歳で亡くなるまで原発反対の看板を掲げ続けたおばあさん…、の話を悲しみと怒りを抱いた。伊方原発のPR館には、東電福島原発事故の被害や現状の説明が全くなく、原発装置の宣伝ばかりであきれる。

原発稼働ゼロ78日目の12月1日、「NO NUKES えひめ 福島を忘れない! 伊方を稼働させない!」で松山の城山公園に約8千人が集まり市内をデモした。集会では、ミサオさん、橋本あきさん、木村俊雄さん、山本太郎さん、三宅洋三さん、広瀬隆さん、鎌田慧さん、秋山豊寛さん、国会議員が、原発再稼働反対と秘密保護法への怒りを強く訴えた。昼に鯛めしや蟹汁等を満喫していると、急に雨が降りだし徐々に激しくなり雨中の集会になった。それでも、デモ出発頃には小雨に戻り、松山市内に「伊方原発再稼働反対」の声を轟かせた。再稼働阻止全国ネットワークのデモでい団体では、全国の原発

立地の団体の旗がたなびいた。

驚いたのは南北2コースに分かれた「歩道通行」デモ! 東京では歩道を歩くと車道のデモ隊内に入れとうるさい警官が、ここでは車道を歩くと執拗に歩道に戻れとデモ参加者を「補導」する。往復2車線道路が多いとはいえ表現の自由の権利行使の観点で少々残念。

夜の再稼働阻止全国ネットワークの交流会も大賑わい。松山でチラシ撒き情宣活動をした経産省前テントひろばツアー参加者も合流、鎌田慧さん・一千万人アクション事務局・反原連の皆さんのお話とともに、何としても伊方再稼働を止めると決意し「伊方の家」を確保して住民との対話を開始したYさんのアピールで盛り上がった。

なお、この日に再稼働阻止全国ネットワーク編の『原発再稼働 絶対反対』(週刊金曜日刊、126ページ、本体800円+税)を発行。全国の原発現地の現状(原発の危険性)をほぼすべて網羅した本を集会・デモ・交流会の参加者が持ち帰った。

2日の愛媛新聞では集会とデモが写真入りで大々的に報じられた。ツアー参加者は列車とバスに別れて八幡浜に向かい、総勢100名で伊方原発ゲートをヒューマンチェーンで取り囲み、昼には伊方町役場に移動して町役場に申入れをし、午後には八幡浜市内の公民館で木村俊雄さんのお話を聞いた。

(木村雅英／「再稼働阻止全国ネットワーク」事務局)

憲法を読む

『満心愛の人 益富鶯子と古謝トヨ子』

大橋由香子 著
インパクト出版会 1400円+税

タイトルにある二名の人物について話されている書ではあるけれど、この二人を知るだけではなく、実に多くのテーマについて考えさせられる本で、どこに焦点を絞ってご紹介していいか、とても迷ってしまう。

トヨ子の両親は沖縄の人だが、フィリピン・ミンダナオにマニラ麻畑の労働者として移住した。トヨ子を頭に下に4人の子どもがいた。1941年に日本の占領下になったが、勢いのよかったときは短く、米軍の反攻に追われてジャングルを逃げ惑い、敗戦後収容所に入る。日本国への送還を待つ間に父が病死してしまう。やっと乗れた帰還船のなかで母もマラリアで死亡する。熱帯の国から11月の寒い浦賀に上陸、乳飲み子の末弟を抱えたトヨ子はまだ14歳くらい。元兵舎の建物に収容される。

そこに孤児の引き取り手として益富鶯子が登場する。クリスチャンだった両親がナイチンゲールのような人に、との願いでつけられた名前が「おうこ」と読む。トヨ子姉弟にとっての幸運の始まりだった。キリスト教系の愛恵学園、愛隣団の施設で鶯子の想像を超える深い愛情を受けて、言葉にも季節感にも不慣れだったトヨ子たちは育っていった。大橋さんはそのトヨ子と逢い、関連取材を重ねてこの一冊は生まれたようだ。

戦前、神戸に賀川豊彦というキリスト者がいて、貧富の差の烈しい地でセツルメントという社会事業運動を起こし、信者や学生を指導して各地にその思想と実践を展開していた流

れがあった。ここに登場する愛恵学園もそのうちの一つであったという。キリスト教では「犠牲と奉仕」ということを掲げて、いろいろな事業を行った歴史がある。いまでは宗教に関わりのない人たちがさまざまなグループをつくり、災害時には「ボランティア」として活躍するようになった。しかしカソリック教会が、現在も世界各地で援助活動を行って深く根を下ろしていることに驚く。仏教界でも曹洞宗のお坊さんが海外での奉仕活動に力を入れているようだ。宗教に抛らない自発的ボランティア活動が広がることは望ましいけれど、やはり活動の組織が根拠地や歴史的経験に、世界的紐帯をもつことの強みがあることを思う。災害時に自衛隊が救援活動に力を発揮するのも、やはり組織の仕組みをうまく使うからだ。ルソン島の台風災害の救援に2000人規模で出動するのも、軍艦があるからできることだ。宗教や軍隊に頼らないシステムはつくれるだろうか。

海外に住み活躍する人も多くなったが、一旦コトが起れば「強制送還」ということになる。戦前から移住や出稼ぎの比較的多かった沖縄が、戦争でうけた被害は内外ともに甚大で、まだ伝えられていない部分も多い。トヨ子たちも敗戦時いきなりヤマトに送還され、沖縄への選択はなかったようだ。「引揚げ」にまつわる悲劇にも大橋さんの目は及んでいる。

まだまだ外にこの書が示唆していることはたくさんある。気持ちを鋭敏にして、個々の事実、経験から知る、考えるという行為を掘り下げていきたい。(梶川涼子／事務局)

反改憲ニュースクリップ

2013年11月28日～12月12日

特定秘密保護法案が強行可決・成立

【11月28日】〈一票の格差〉1票の格差が最大で4.77倍だった7月の参院選をめぐり、2つの弁護士グループが選挙無効を求めた訴訟で、広島高裁岡山支部が岡山選挙区の選挙を違憲で無効とする判決を言い渡す。7月参院選の無効判決は初。

【11月29日】〈秘密保護法〉自民党の石破茂幹事長が、国会周辺で行われているデモについて「単なる絶叫戦術はテロ行為とその本質においてあまり変わらないように思われます」と自身のブログに書き込む。

【11月30日】〈武器輸出〉日印両政府が、海自の救難飛行艇US-2のインド輸出に向け、防衛相など関係当局者の合同作業部会を12月に発足させることで合意したと判明。

【12月1日】〈集団的自衛権〉政府が、集団的自衛権の行使を可能とする憲法解釈変更の試案をまとめたことが判明。現行9条の下で許容される「必要最小限度」の自衛権行使の範囲内に集団的自衛権も含まれるとの論理構成。〈辺野古〉自民党沖縄県連が、名護市辺野古への普天間飛行場の移設を容認する方針へと転換することを総務会で確認。

【12月2日】〈秘密保護法〉内閣官房の鈴木良之内閣審議官が、特定秘密を取り扱う公務員らに対する適性評価について、行政機関から照会を受けた病院には過去の通院歴などを回答する法的義務があるとの見解を示す。参院国家安全保障特別委員会で、〈道徳教育〉文部科学省の有識者会議が、正式な教科ではない小中学校の道徳の時間を教科に格上げすべきだとする報告書をまとめる。

【12月3日】〈武器輸出〉自民・公明両党が安全保障プロジェクトチームの会合を開き、武器輸出三原則を見直す方向で一致。

【12月4日】〈秘密保護法〉安倍首相、第三者的チェック機関として「情報保全諮問会議」「保全監視委員会」「独立公文書管理監」の新設を参院特別委で突然表明。〈日本版NSC〉国家安全保障会議（日本版NSC）が発足。首相、外相、防衛相、官房長官に麻生副総理兼財務相を加えた会合を初開催。防衛識別圏問題への対応、国家安保戦略などについて討議。〈福島原発事故〉東電福島第一原発事故で生じた損害賠償請求権の時効を民法上の3年から10年へと延長する特例法が参院本会議で可決・成立。〈障がい者の権利〉障がい者への差別をなくし社会参加を促す国連障害者権利条約の承認案が、参院本会議で全会一致で可決される。

【12月5日】〈秘密保護法〉与党が参院特別委で法案を強行可決。〈婚外子差別〉婚外子への遺産相続分を嫡出子と平等にする民法改正案が参院本会議で全会一致で可決・成立。

【12月6日】〈秘密保護法〉与党が参院本会議で法案を強行可決し、法案は成立。〈改憲手続法〉自民・公明両党が改憲手続法改定に関する実務者協議を開き、改定法の施行から4年間は投票年齢を20歳以上に据え置き、その後は自動的に18歳以上とすることで合意。公務員の地位利用による運動への罰則は設けないこととした。今後それぞれの党内手続きに

移る。〈原発政策〉経済産業省が策定中のエネルギー基本計画の素案を総合資源エネルギー調査会基本政策分科会に提示。原発を「重要なベース電源」として重視し、核燃サイクルの推進などを打ち出す内容。〈生活保護〉生活保護法改定案と生活困窮者自立支援法案が衆院本会議で自民・公明などの賛成多数で可決・成立。「自立」を促し、親族の扶養義務を強化する内容。不正受給への罰則も強化する。

【12月7日】〈秘密保護法〉特定秘密保護法の成立を受け、安倍首相が、米国と結んでいる軍事機密に限定した情報保護協定をテロ情報などにも拡大する方針を固め、外務、防衛両省が新たな協定締結に向けた検討に入る。

【12月10日】〈国家安保戦略〉政府が、策定中の国家安全保障戦略に「防衛装備品の活用による平和貢献・国際協力に一層積極的に関与する」と明記する方針を固める。また、自民公明両党が、戦略に「愛国心」を明記する方針を了承。〈中期防〉政府が、2014年度から5年間の中期防衛力整備計画の総額を、11年度からの総額23.5兆円よりも増額する方針を固める。防衛省は24.9億円を要求し、財務省は23.9億円を提示している。〈慰安婦〉日中外交当局が1992年、旧日本軍の慰安婦問題を大きくしないよう互いに抑制的に対応すると合意していたことが、朝日新聞の調査で判明。予定されていた初め天皇訪中などへの影響を懸念したためとみられる。

【12月11日】〈自民党草案〉自民党が党憲法改正草案に関する全国対話集会の開催を来年に先送りすることが判明。

〈共謀罪〉政府が、共謀罪新設を盛り込んだ組織犯罪処罰法改定案の検討に入る。〈秘密保護法〉自民党の石破幹事長が、特定秘密を報道機関が報じた場合、「国の安全がきわめて危機に瀕するのであれば、常識的に考えた場合、その行為は何らかの方向で抑制されることになる」と発言。他方、自民党が、特定秘密を国会が監視する仕組みとして、衆参両院議長の下に国会議員で構成する諮問機関の検討を始めたことを中谷元・元防衛庁長官が明らかに。〈新防衛大綱〉政府が、新防衛大綱に掲げる防衛力整備の基本理念について、陸海空各自衛隊の連携を重視する「統合機動防衛力の構築」とする方針を固める。

【12月12日】〈死刑〉法務省が2人の死刑囚に対する刑を執行。執行は9月12日以来で、昨年12月の安倍政権発足からは計4回・8人。〈税制大綱〉自民・公明両党が2014年度税制改正大綱を決定。軽自動車税を増税し、給与所得控除を縮小する。消費税の軽減税率については結論が出ず。

憲法審査会動向

【11月28日】衆院憲法審査会が開かれ、9月12～22日にドイツ・チェコ・イタリアで実施された憲法および国民投票制度の調査について報告がなされる。

私も一言 186

内田真人 (作品社編集部)

不倫と憲法

2009年、韓国の人気女優オク・ソリが「姦通罪」で有罪判決(懲役8か月、執行猶予2年)を受けたことは日本でも報道されたので、姦通罪なんて残っている国もあるんだと驚いた人も多いようだ。イランでは2008年、なんと姦通罪で男性が石打ち刑の死刑となっている。東アジアにも姦通罪がある国が多いが、法的には何をもって「姦通」とするかは非常にいい加減だ。台湾で2008年、妻の不倫を疑った夫が興信所に依頼し、男性とホテルに入った所を、調査員と部屋に飛び込

んだ。妻は、男性にオーラル性行為の真っ最中だった。夫は妻の姦通現場を押さえたところを姦通罪で告訴。ところが妻は、それはしたが、それ以上の性行為はしていないと主張。結果、台湾の地検は「性器は結合させていない」として不起訴とした。つまり台湾では、法的にはオーラル性行為は姦通ではないのだ。また韓国では2006年、妻が男性とホテルにいる所を、夫が警官とともに突入した。妻は行為後のシャワーを浴びていたが、警官は証拠を押さえるために、妻の性器から体液を採取。体液の陽性反応が出たために、現行犯として逮捕した。ところがDNA鑑定によって姦通相手のものと特定しようとしたら、精子が検出されなかった。パイプカットか無精子症だったようだ。韓国の検察は「姦通の事実が明白だ」と起訴したが、裁判所は体液が誰のものが特定できないとして無罪判決を下した。つまり韓国では、パイプカットしていれば姦通罪は免れるというわけだ。日本では1947年、新憲法の制定によって、このように「秘密保護法」のごとく曖昧な基準の姦通罪は廃止され、国家による性的管理から解放された。ちなみに日本の不倫率は、相模ゴムの調査によると男性26.9%、女性16.3%。

集会・行動情報 12/21 ~ 1/25

▶ **12/21 (土) レイバーフェスタ2013** ◆当日券1500円(障がい者・学生・失業者200円引き) ◆開場10:00~映画「戦場の村」、12:00~トーク:伊佐真次ほか ◆田町交通ビル6階ホール(JR山手線・京浜東北線田町駅下車) ◆レイバーフェスタ2013実行委

■ **「危機の時代」の日本と中東 「オイルショック」40年の政治/軍事の構造転換を考える** ◆参加費500円 ◆第1部:講演:板垣雄三 ◆第2部:報告:福好昌治、役重善洋 ◆13:30~ ◆麻布台セミナーハウス(大阪経済法科大アジア太平洋研究センター)(東京メトロ日比谷線神谷町駅下車) ◆ミューダートン(パレスチナ・対話のための広場)、「ストップ!ソーダストリーム」キャンペーン

■ **くりかえすな! 戦争への道 猪瀬流教育破壊を告発する** ◆参加費500円 ◆講演:中田泰彦(一橋大学大学院教授) ◆現場報告:小中学校、都立高校、特別支援学校、首都大学東京、「日の丸・君が代」裁判 ◆13:30開場 ◆豊島区民センター(池袋駅東口下車) ◆「12月集会」実行委員会(呼びかけ:学校に自由の風をネットワークなど)

▶ **12/22 (日) 再稼働反対★国会大包围** ◆13:00~日比谷野音大集会(東京メトロ霞ヶ関駅、都営地下鉄三田線内幸町駅下車) ◆15:00~国会大包围 ◆15:30~官邸前・国会前大抗議 ◆主催:首都圏反原発連合、協力:さようなら原発1000万人アクション/原発をなくす全国連絡会/脱原発世界会議/経産省前テントひろば/再稼働阻止全国ネットワーク

▶ **12/23 (月・休) 反天連集会「安倍政権と象徴天皇制」** ◆発言:青山薫、伊藤晃、天野恵一 ◆開場14:15 ◆日本キリスト教会館4F会議室(東京メトロ東西線早稲田駅下車) ◆反天皇制運動連絡会

▶ **12/29 (日) ~ 1/6 (月) 山谷越年・越冬闘争**

2013~2014 ◆12月29日午後5時~突入集会:山谷労働者福祉会館2F(JR・東京メトロ日比谷線南千住駅下車) ◆12月31日(火)12時~はじめての山谷講座と福島原発事故・被ばく労働問題肉迫ツアー報告会:山谷労働者福祉会館 ◆1月1日(水)なぜさ寮もちつき ◆1月2日(木)隅田公園山谷堀広場もちつき ◆1月3日(金)壺川(亀戸)もちつき ◆1月4日(土)上野公園もちつき ◆1月5日(日)生活保護切り下げ許すな 学習と寄り合い ◆1月6日(月)早朝撤収作業→生活保護集団申請行動

▶ **1/13 (月・休) 連続シンポジウム第4回「原子力規制委員会」の原発再稼働への「暴走」を許すな** ◆資料代500円 ◆問題提起:鵜飼哲、天野恵一 ◆13:30 ◆日本キリスト教会館(早稲田奉仕園となり、東京メトロ東西線早稲田駅下車) ◆福島原発事故緊急会議

■ **袴田巖さんは無実だ 即時再審開始を求める全国集会** ◆ゲスト:江川紹子、弁護団:西嶋勝彦 ◆13:30開会 ◆静岡県総合社会福祉会館(JR静岡駅下車) ◆同集会実行委

▶ **1/18 (土) 国連・憲法問題研究会講演会「レイシズムと安倍政権——なぜ隣人を憎むのか」** ◆参加費800円(会員500円) ◆講師:安田浩一 ◆18:30~ ◆文京シビックセンター地下1階学習室(東京メトロ後楽園駅、都営地下鉄春日駅下車) ◆国連・憲法問題研究会

▶ **1/25 (土) 国連・人権勧告の実現を! 1・25集会とデモ** ◆アトラクション:大熊ワタルとジンタラムータ、発言:田中宏 ◆集会:13:30~14:45 ◆デモ:15:00~ ◆国連・人権勧告の実現を! 実行委員会

■ **アジア連帯講座公開講座「沖縄の『自治・自決・独立』論にどう向き合うべきなのか」** ◆提起:国富建治 ◆資料代500円 ◆18:30~ ◆豊島区民センター第6会議室(池袋駅東口下車) ◆アジア連帯講座

▶ **「反改憲」運動通信**:1部200円(月2回発行/第9期:2013年6月~2014年5月)
▶ **事務局・連絡先**:〒101-0063 東京都千代田区神田淡路町1-21-7 静和ビル2A 淡路町事務所気付
▶ **Tel & Fax**:03-3254-5460 ▶ **E-Mail**:han-kaiken@alt-movements.org ▶ **Web**:http://www.alt-movements.org/han-kaiken/
▶ **年間定期購読料**:4,000円(2013.6~2014.5) ▶ **郵便振替**:00190-7-11558 「反改憲」運動情報通信